



## スクールカウンセラー便り



佐藤 健（文責）

読書の秋ということで、今回は1冊の本を紹介します。それは、シルヴァスタインさんの「ぼくを探しに」という絵本です。これは有名な本なので、一度は読んだことのある人も多いのではないのでしょうか。

この本のストーリーはとてもシンプルなものですが、味わい深く、考えさせられます。読み直すたびに、大切なことに気づかされます。興味のある方は、ぜひ一度（あるいは久しぶりに）読み返してみてください。

この物語は、主人公の「ぼく」が「何かが足りない。それでぼくは楽しくない」とつぶやくところから始まります。そしてぼくは、自分の欠けている部分を探す旅に出ます。

ある日、やっとのことで自分に欠けていた「かけら」と出会ったぼくは、それを自分に当てはめて、ついに理想の自分となります。面白いことに、理想の自分を手に入れたぼくは、それまで欠けていた頃の楽しみが失われてしまったことに気づき、かけらをそっとおろします。そして再び、自分の好きな歌を口ずさみながら、足りない自分を探す旅に出ます。

このストーリーは色々な解釈ができそうですが、「欠点のある自分」だからこそ、今の暮らしや人生を楽しむことができる、というメッセージとしても受け取れるかもしれません。

欠点や不足があるのはだめなことではなく、むしろそれがあることで、人は自分にとっての喜びを感じながら成長していける、とも言えそうです。

作者のシルヴァスタインさんは、この物語の序文で「だめな人と だめでない人のために」と記していますが、「自分はだめだと思ってもいい。足りないところを追い求めてもいい。あなたはそれでいいのだよ」と作者から言ってもらえたように私は感じました。みなさんもこの秋、大切な本と出会えますように。



<11月・12月のカウンセラー相談日>

11月8日（金）、22日（金）

12月6日（金）、20日（金）

時間帯 13:30～16:40

